

踏み跡 <My Mountains>

南アルプス	北岳から仙塩尾根南部縦走	No.179
-------	--------------	--------

前回 (No.178) 同行した中條君が、「今年も山へ行ってみよう」と言う。南アルプスの歩き残した「仙塩尾根」を歩いてみたいと思っていた矢先のこと、行き先は「北岳から入って仙塩尾根の南部をなめて三伏峠から下りる縦走」と決まった。

次女が生まれ子供たちの面倒も見なければならぬし、とは言えども少しは山歩きもしてみたいし……。誰もが体験することだろうが、私も複雑な心境の時期に差し掛かった。

昭和50年8月19日 <出発→甲府→広河原→白根御池>

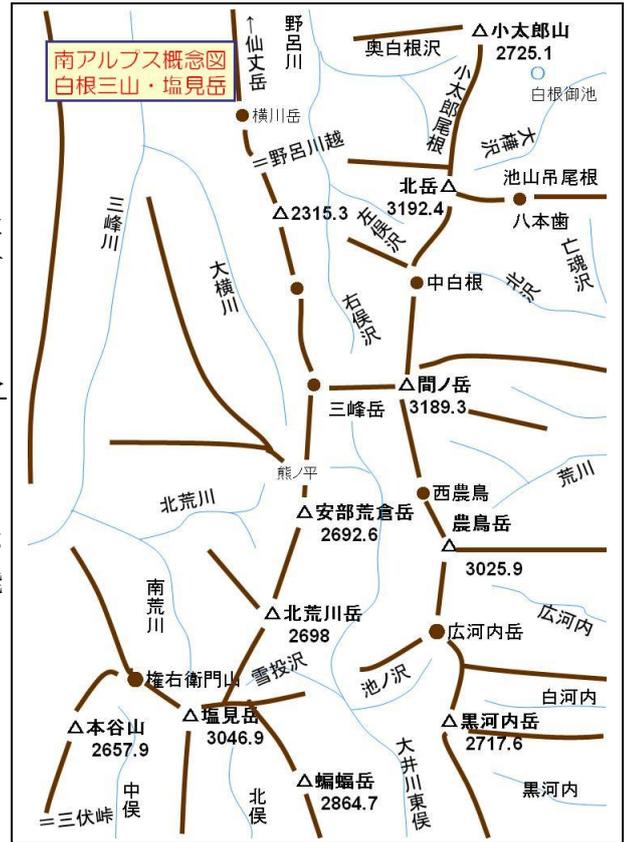
新宿発9時28分急行たてしな。夜行列車か早朝の列車での出発が多かったので、こんな時間帯に出かけるとちょっとわくわくする。

甲府に着いたら大きな誤算が待ち受けていた。野呂川林道が土砂崩れのため、夜叉神峠経由で広河原へ入ることは不可能南へ大回りして早川橋・奈良田経由で入るしかないという。タクシー乗り合いで行くことにして、メンバーを集めて12時10分に甲府駅を出発。(一人2,510円)

広河原14時30分着。アクシデントもあり、やや遅めの昼食(おにぎり三個)をとって15時出発。

白根御池17時50分着。ガスの間に北岳と八本歯がよく見える。ツェルトを張り夕食準備。夕食は豚汁と持参したおにぎり。

20時、就寝前にツェルトから顔を出してみたら北岳が黒々としかもどっしりと鎮座している姿が見えた。明日の天気は大丈夫そうだ。



昭和50年8月20日 <白根御池→北岳→間ノ岳→三峰岳→熊ノ平>

起床4時25分、天気は快晴、気分は爽快。朝食はインスタントラーメン。

6時25分出発。樹林帯を抜けると背中からの日差しが暑い。鳳凰三山が見え、富士山も見えるようになってくると、暑さも忘れて頑張ることができてしまう。不思議だ。小太郎の肩8時25分、軽食を取り25分の休憩。今日の行程はかなりハードなので、こまめに休んで軽食をとり、ガス欠にならないようにしなければならない。

北岳肩の小屋9時20分。甲斐駒が特徴的な容姿を存分に見せてくれるのがうれしい。しかし、それとは対照的に仙丈は終始ガスの中に身を隠し寂しい限りだ。

10時10分出発。

北岳山頂(3192.4m)10時40分。

頂上で展望を楽しみたかったがガスの中で何も見えないので10分の小休止に留めて、先へ駒を進める。

小白根11時55分、景色が楽しめないのお昼ではあるが5分の小休止だけで通過。間ノ岳(3189m)13時25分。軽い食事と35分間の休憩。ここから西へ進路を変えて三峰岳に向かう稜線は、北側は野呂川つまり富士川の源流で南側は大井川の源流となる。さらにこの先の三峰岳の西側の谷は三峰川つまり天竜川の源流である。まさに「これが分水嶺だ!」と言えるような稜線を歩くのだと思うと興奮してくる。



踏 み 跡 <My Mountains>



三峰岳（2999m）14時25分着。三つの大きな流れを發する分水嶺である三峰岳は、巨大な間ノ岳の広がりによって圧倒されてしまうようなちっぽけな突起だけの、三角点もない頂上だった。

三峰岳からのゆったりとした下りは、北アルプスの三ツ岳と南アルプスの百間洞を合わせたような美しい気持ちの良い下りだ。

熊ノ平 15時30分。本日の行程の終着

点。水が豊富でうれしくなってくる。（テントサイト使用料 300円）チシマギキョウとタテヤマリンドウが目立つ。夕食は豚汁とシーチキンの缶詰。

農鳥岳の肩から大きな月が顔を出し、我々のツェルトを煌々と照らし始めた。



20時、就寝の体制に入ったがツェルトの中まで月明が届き明るくてなかなか寝付けなかった。

昭和50年8月21日 <熊ノ平→北荒川岳→塩見岳→三伏峠>

起床4時、昨夜月がきれいに出ていたので安心していたら、霧雨が降っている。昨日の天気図から想像すると、台風の影響を受けているのかもしれない。

6時25分出発。歩き始めたら雨がひどくなってきたので、小屋で様子を見ながらキジ射ち。

7時、あらためて出発。緩やかな傾斜を歩いているうちに、いつの間にか安倍荒倉岳を通過してしまった。岩峰を越えると花畑と言いたくなるような花の群がりに入った。ハクサンフウロ、キンポウゲ、トリカブト、ミヤマシシウドなどなど。

北荒川岳の北コルで昼食。昼食の後、北荒川岳を越えて南側のコルで再び小休止し、レモンで活気をつける。今日は塩見岳を越えて三伏峠まで行かなければならないので、小刻みに体を休めながら栄養も補充。

塩見岳（3046.9m）12時25分着。サンマの蒲焼缶詰をおかずにはヤマザキのココナツを食べて二度目の昼食とする。12時50分歩き始めたら雨が降り出してきた。

権右衛門山南面にある権右衛門沢の水場 13時55分。水をたっぷり飲んで5分の休憩。

三伏峠 15時50分着。雨でかなり濡れてしまったので、今日は小屋泊まり（素泊まり¥800）にする。

夕食はカレーライス。満腹と疲れで心地よく眠りに就こうと思って寝袋に入りうとうとし始めたら、小屋番の学生が「ウイスキーがあるから来ませんか？」と誘いに来た。

ブラック50を飲みながら山の話。南アルプスの話、スーパー林道の話、などなど。昔ながらの古臭い造りの三伏小屋が気に入っているという彼、「南アルプスでは荒川岳が一番」と言う。そして山あいの道路が整備されていくことで、地味ながら大きな魅力を秘めている三伏峠が俗化してしまうのが怖いとも言う。

21時就寝し直し。話がはずみ過ぎて少々酔ってしまったかも。

昭和50年8月22日 <三伏峠→塩川→鹿塩温泉>

起床6時、天気は霧雨。今日は下山なので少々悪天候は気にはならない。朝食を済ませて9時に出発。

三伏峠小屋でひと休みし、小屋番と雑談。今日は下で一泊したいと思っていると話したら、9時に定時無線交信する時に山塩館の予約を入れておいてくれると言う。ありがたくお願いした。

登るときはかなり大変なこのルート、宿泊場所が確保できたことも手伝って足取りも軽く下山。

塩川小屋で小休止をとり、鹿塩温泉に13時40分到着。無線で予約が入っている山塩館に入り、最後の夜。

16時、もう用はないとは思いますが習慣になっているので天気図作成。（一泊二食付き¥6000）

昭和50年8月23日 <鹿塩温泉→伊那大島→帰京>

起床7時。「中央線が日野春・穴山間で不通」とニュースが報じていたが、どうにかなるだろうと気にもせず7時55分出発。鹿塩発8時20分のバスに乗車。伊那大島駅まで45分の車窓の旅。伊那大島10時30分発の飯田線は45分遅れ。辰野着は12時ちょうど、昼飯抜きで大急ぎで中央線に乗り換え、12時06分発アルプス3号新宿行。朝耳にした「日野春・穴山間不通」の話はもうなく、無事帰宅することができた。

以上